

キヤノン株式会社

2019年第1四半期 決算説明会

2019年4月24日

代表取締役副社長 CFO 田中 稔三

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

目次

■ 当社の置かれている状況について	P 2
■ 2019年1Q実績	P 3~6
■ 2019年最新見通し	P 7~11
■ 事業別詳細 (2019年1Q実績/2019年最新見通し)	P 12~18
■ 財務状況	P 19~20
■ サステナビリティへの取り組み	P 21~22
■ 参考資料	P 23~26

事業ポートフォリオの転換は着実に進展している

- 2005年からのM&Aにより、新規事業の4本柱が出揃った
- 今年も新規事業は増収の計画
- 新規事業の売上構成比は25%まで高まる

外部環境の変動が重なった影響で、業績は足踏み状態だが、新規事業は確実に成長

⇒ 事業ポートフォリオの転換を更に加速させ、来年以降の回復につなげていく

外部環境

- 中国や欧州を中心とした景気減速
- 前年比較でユーロなど通貨安が進行

事業環境

- カメラは市場縮小幅拡大
- 産業機器関連では、顧客の投資抑制が続く

⇒経費は前年以下に抑えるも、数量減、また
昨年の利益が高かったこともあり、減収減益

2019年 全社PL(1Q)

- 対前年：カメラと産業機器の減少に加え、為替の影響もあり、2桁の減収減益

(億円)	2019年 1Q実績	2018年 1Q実績	対前年
売上高	8,645	9,607	-10.0%
売上総利益 (売上総利益率)	3,904 45.2%	4,447 46.3%	-12.2%
経費	3,500	3,676	
営業利益 (営業利益率)	404 4.7%	771 8.0%	-47.6%
営業外損益	57	87	
税引前利益	461	858	-46.2%
純利益 (純利益率)	313 3.6%	571 5.9%	-45.2%
USD	110.31	108.03	
EURO	125.17	133.10	

2019年 セグメント別PL(1Q)

- イメージングシステムや産業機器その他を中心に、全てのビジネスユニットで減収減益

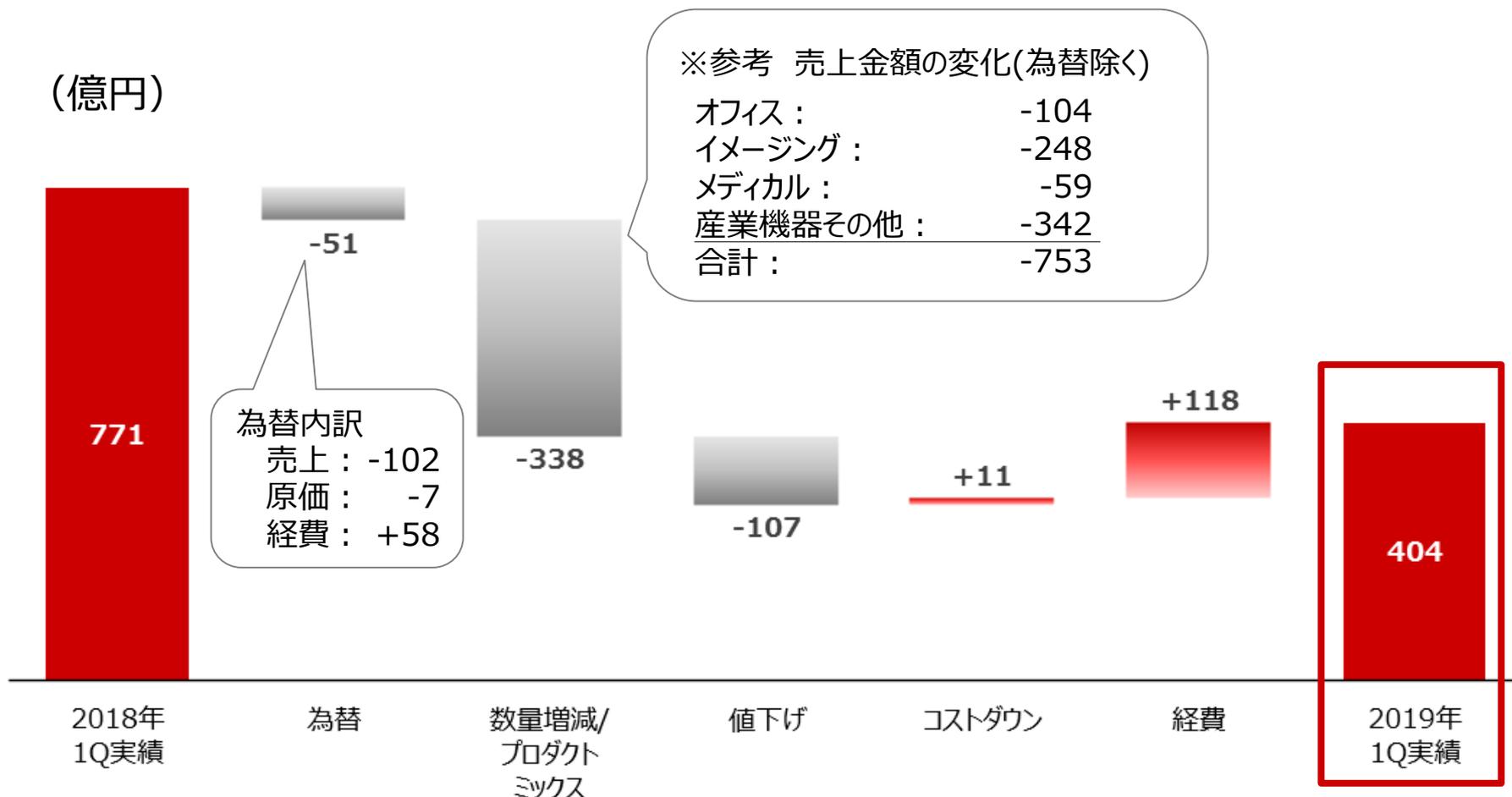
(億円)		2019年 1Q実績	2018年 1Q実績	対前年
オフィス	売上高	4,256	4,427	-3.9%
	営業利益	451	517	-12.8%
イメージング システム	売上高	1,763	2,125	-17.0%
	営業利益	47	257	-81.6%
メディカル システム	売上高	1,094	1,171	-6.5%
	営業利益	67	105	-36.0%
産業機器 その他	売上高	1,765	2,128	-17.1%
	営業利益	53	154	-65.7%
全社消去	売上高	-233	-244	-
	営業利益	-214	-262	-
連結合計	売上高	8,645	9,607	-10.0%
	営業利益	404	771	-47.6%

※ 放送機器やシネマ用ビデオカメラなどのビジネスについて、イメージングシステムから産業機器その他へ遡及して組替えを行っております。
(2018年1Q実績：売上 93億円、営業利益 -19億円)

営業利益分析(1Q)対前年

- 数量増減は、カメラ・産業機器の売上減により減益
- 経費は昨年以下の水準に抑える

(億円)



2019年最新見通しのポイント



【2Q以降の為替前提】

19年2Q-4Qの為替影響額
(1円の変動による影響)

平均為替レート	19年2Q-4Q	19年年間
USD/円	105.00円	106.20円
EUR/円	125.00円	125.04円

売上	営業利益
101億円	34億円
48億円	24億円

【外部環境】

- 世界経済は、緩やかな成長が見込まれるものの、主要地域には減速懸念があり、先行きには不透明感

【2019年見通し】

- カメラや露光装置を中心に、前回公表から売上・利益ともに500億円程度引き下げ
- 現行事業の新製品効果と新規事業の成長により、下期にかけて業績の回復を見込む

2019年 全社PL(年間)

- 前回公表から売上で500億円、営業利益で510億円引き下げ
- 純利益2,000億円を確保

(億円)	2019年 最新見通し	2018年 年間実績	対前年	2019年 前回見通し	対前回
売上高	38,500	39,519	-2.6%	39,000	-500
売上総利益 (売上総利益率)	17,322 45.0%	18,356 46.4%	-5.6%	17,590 45.1%	-268
経費	14,582	14,926		14,340	-242
営業利益 (営業利益率)	2,740 7.1%	3,430 8.7%	-20.1%	3,250 8.3%	-510
営業外損益	210	199		225	-15
税引前利益	2,950	3,629	-18.7%	3,475	-525
純利益 (純利益率)	2,000 5.2%	2,528 6.4%	-20.9%	2,400 6.2%	-400
USD	106.20	110.43		105.00	
EURO	125.04	130.29		125.00	

2019年 セグメント別PL (年間)

- イメージングシステム・産業機器その他：年間見通しを引き下げ
- オフィス：新製品の拡販により、引き続き全社を下支え
- メディカル：前回公表を据え置き、増収増益を見込む

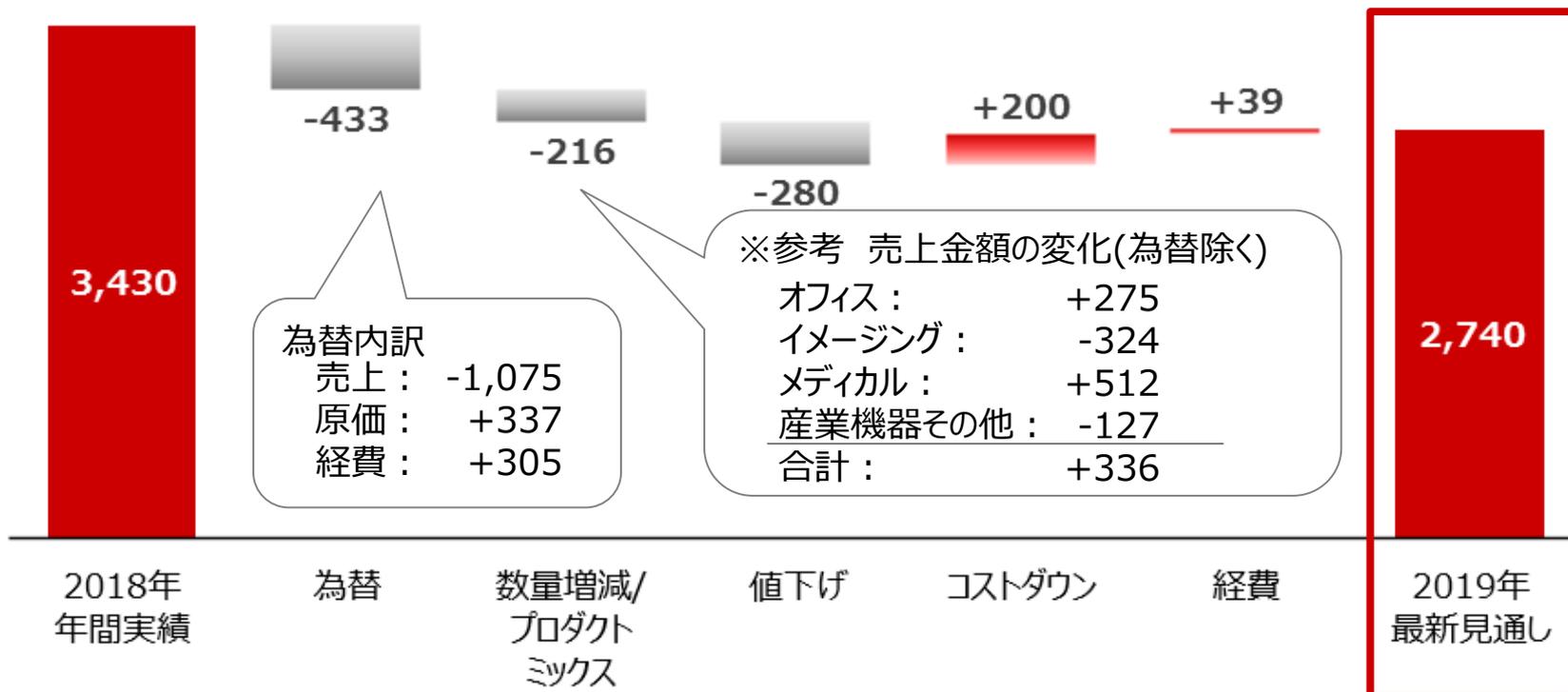
(億円)		2019年 最新見通し	2018年 年間実績	対前年	2019年 前回見通し	対前回
オフィス	売上高	17,725	18,073	-1.9%	17,640	+85
	営業利益	2,040	2,208	-7.6%	2,125	-85
イメージング システム	売上高	8,890	9,704	-8.4%	9,285	-395
	営業利益	940	1,267	-25.8%	1,105	-165
メディカル システム	売上高	4,795	4,376	+9.6%	4,770	+25
	営業利益	362	288	+25.5%	350	+12
産業機器 その他	売上高	8,155	8,429	-3.3%	8,450	-295
	営業利益	283	557	-49.2%	395	-112
全社消去	売上高	-1,065	-1,063	-	-1,145	+80
	営業利益	-885	-890	-	-725	-160
連結合計	売上高	38,500	39,519	-2.6%	39,000	-500
	営業利益	2,740	3,430	-20.1%	3,250	-510

※ 放送機器やシネマ用ビデオカメラなどのビジネスについて、イメージングシステムから産業機器その他へ遡及して組替えを行っております。
(2018年年間実績：売上 378億円、営業利益 -97億円 2019年前回見通し：売上 405億円、営業利益 -85億円)

営業利益分析(年間)対前年

- 為替の円高影響を大きく受ける
- 数量増減はカメラと産業機器の売上減により減益

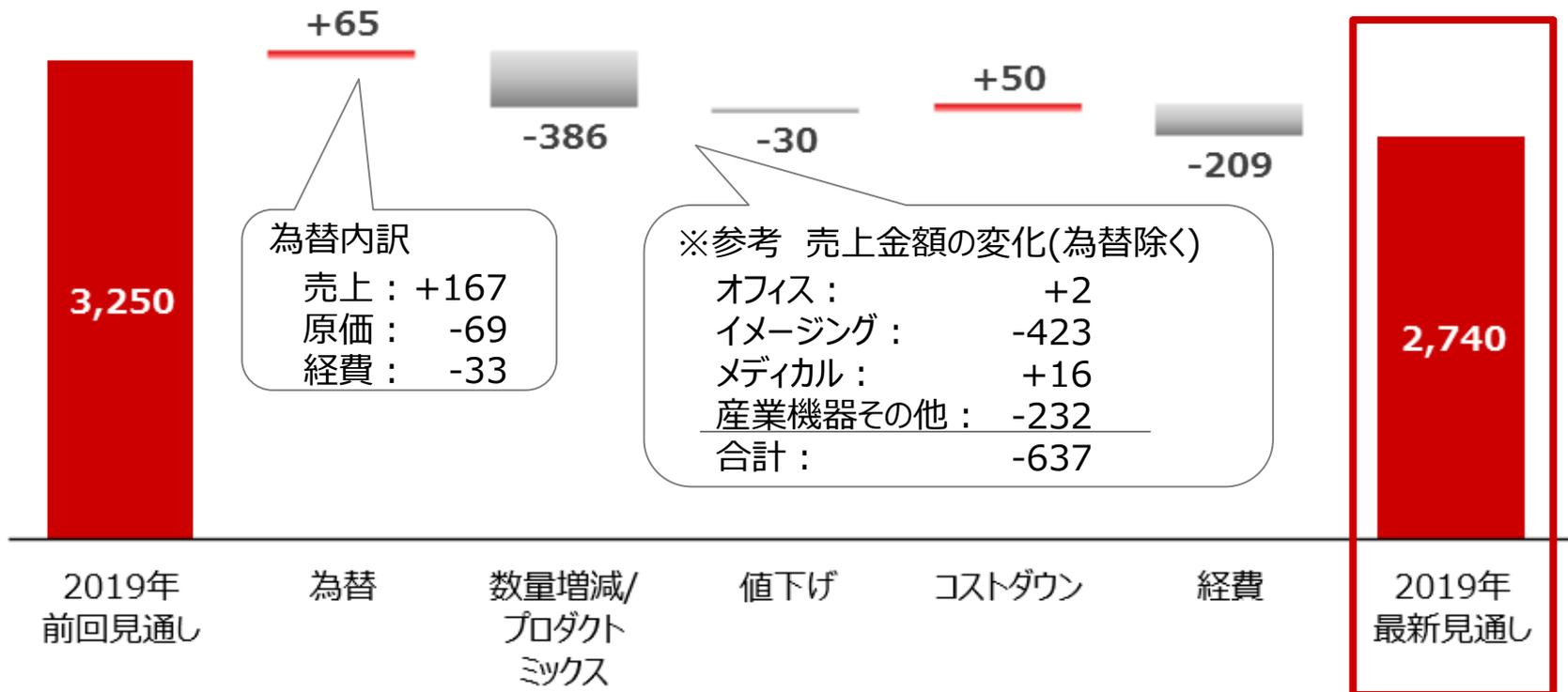
(億円)



営業利益分析(年間)対前回

- カメラと露光装置を中心に見通しを引き下げ
- 部品調達環境の好転により、コストダウン増額
- 一時的な費用の計上により経費は悪化

(億円)



オフィス（複合機）

- 1Qは好調なカラー複合機に加えて、高速機も販売伸長
- 年間はセキュリティ機能を強化した新製品の拡販を図る

(億円)

	1Q			年間				
	2019年 実績	2018年 実績	対前年	2019年 見通し	2018年 実績	対前年	2019年 (前回)	対前回
複合機	1,581	1,635	-3.3%	6,837	6,843	-0.1%	6,752	+85
LP	1,620	1,762	-8.0%	6,625	7,065	-6.2%	6,644	-19
その他	1,055	1,030	+2.5%	4,263	4,165	+2.3%	4,244	+19
売上高計	4,256	4,427	-3.9%	17,725	18,073	-1.9%	17,640	+85
営業利益	451	517	-12.8%	2,040	2,208	-7.6%	2,125	-85
%	10.6%	11.7%		11.5%	12.2%		12.0%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2019年 1Q実績	2019年 見通し
複合機	-1.8%	+3.0%
LP	-8.1%	-3.4%
その他	+4.1%	+5.0%
合計	-3.0%	+1.0%

■ 台数伸び率

	2019年 1Q実績	2019年 見通し
複合機		
モノクロ	+1%	0%
カラー	+6%	+7%
合計	+4%	+4%

『imageRUNNER ADVANCE 第3世代 3rd Edition』



- ・従来機の高信頼性を継承
- ・セキュリティ機能強化
- ・クラウドサービス連携強化

オフィス（レーザープリンター）

- 1Qは消耗品の販売減により減収
- 年間是新トナーを採用した新製品により拡販を図る

(億円)

	1Q			年間				
	2019年 実績	2018年 実績	対前年	2019年 見通し	2018年 実績	対前年	2019年 (前回)	対前回
複合機	1,581	1,635	-3.3%	6,837	6,843	-0.1%	6,752	+85
LP	1,620	1,762	-8.0%	6,625	7,065	-6.2%	6,644	-19
その他	1,055	1,030	+2.5%	4,263	4,165	+2.3%	4,244	+19
売上高計	4,256	4,427	-3.9%	17,725	18,073	-1.9%	17,640	+85
営業利益	451	517	-12.8%	2,040	2,208	-7.6%	2,125	-85
%	10.6%	11.7%		11.5%	12.2%		12.0%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2019年 1Q実績	2019年 見通し
複合機	-1.8%	+3.0%
LP	-8.1%	-3.4%
その他	+4.1%	+5.0%
合計	-3.0%	+1.0%

■ 台数伸び率

LP	2019年 1Q実績	2019年 見通し
モノクロ	-3%	-3%
カラー	0%	+5%
合計	-3%	-2%

オフィス（その他）

- グラフィックアーツ向け新製品の競争力をさらに強化
- MIF拡大によりサービス収入を増加させ、収益性の改善を図る

(億円)

	1Q			年間				
	2019年 実績	2018年 実績	対前年	2019年 見通し	2018年 実績	対前年	2019年 (前回)	対前回
複合機	1,581	1,635	-3.3%	6,837	6,843	-0.1%	6,752	+85
LP	1,620	1,762	-8.0%	6,625	7,065	-6.2%	6,644	-19
その他	1,055	1,030	+2.5%	4,263	4,165	+2.3%	4,244	+19
売上高計	4,256	4,427	-3.9%	17,725	18,073	-1.9%	17,640	+85
営業利益	451	517	-12.8%	2,040	2,208	-7.6%	2,125	-85
%	10.6%	11.7%		11.5%	12.2%		12.0%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2019年 1Q実績	2019年 見通し
複合機	-1.8%	+3.0%
LP	-8.1%	-3.4%
その他	+4.1%	+5.0%
合計	-3.0%	+1.0%



高速カットシートインクジェット
プリンター
『VarioPrint i300』



高画質インクジェットカラー連帳機
『ProStream 1000』



ワイドフォーマットプリンター
『Colorado 1640』

イメージングシステム（カメラ）

- 想定を上回る一眼レフエントリーモデルの市場縮小に加え、中国の景気減速も重なり、市場および当社の年間台数を見直し
- フルサイズミラーレスとレンズの拡販を中心に収益性の回復を目指す

(億円)

	1Q			年間				
	2019年 実績	2018年 実績	対前年	2019年 見通し	2018年 実績	対前年	2019年 (前回)	対前回
カメラ	979	1,272	-23.0%	5,085	5,949	-14.5%	5,559	-474
インクジェット	657	720	-8.8%	3,197	3,202	-0.2%	3,147	+50
その他	127	133	-4.5%	608	553	+9.9%	579	+29
売上高計	1,763	2,125	-17.0%	8,890	9,704	-8.4%	9,285	-395
営業利益	47	257	-81.6%	940	1,267	-25.8%	1,105	-165
%	2.7%	12.1%		10.6%	13.1%		11.9%	

※ 放送機器やシネマ用ビデオカメラなどのビジネスについて、イメージングシステムから産業機器その他へ遡及して組替えを行っております。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

■ 台数伸び率 (単位：万台)

フルサイズミラーレス

『EOS RP』

	2019年 1Q実績	2019年 見通し		2019年1Q実績		2019年見通し	
				台数	伸び率	台数	伸び率
カメラ	-21.5%	-11.2%	レンズ交換式	85	-19%	420	-17%
インクジェット	-7.2%	+2.8%	コンパクト	51	-14%	260	-18%
合計	-15.4%	-5.2%					



イメージングシステム（インクジェット）

- 1Qは、市場の縮小影響を受け当社の販売台数も減少
- 大容量インクモデルのラインアップ強化や販売投資により、年間では市場を上回る成長を目指す

(億円)

	1Q			年間				
	2019年 実績	2018年 実績	対前年	2019年 見通し	2018年 実績	対前年	2019年 (前回)	対前回
カメラ	979	1,272	-23.0%	5,085	5,949	-14.5%	5,559	-474
インクジェット	657	720	-8.8%	3,197	3,202	-0.2%	3,147	+50
その他	127	133	-4.5%	608	553	+9.9%	579	+29
売上高計	1,763	2,125	-17.0%	8,890	9,704	-8.4%	9,285	-395
営業利益	47	257	-81.6%	940	1,267	-25.8%	1,105	-165
%	2.7%	12.1%		10.6%	13.1%		11.9%	

※ 放送機器やシネマ用ビデオカメラなどのビジネスについて、イメージングシステムから産業機器その他へ遡及して組替えを行っております。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2019年 1Q実績	2019年 見通し
カメラ	-21.5%	-11.2%
インクジェット	-7.2%	+2.8%
合計	-15.4%	-5.2%

■ 台数伸び率

	2019年 1Q実績	2019年 見通し
インクジェット	-4%	+2%



インクジェット
A3複合機

メディカルシステム

- 1Qは減収も、新製品の市場浸透が進む
- 年間は、好調な新製品の販売を加速し、増収増益を目指す
- 引き続きグループ連携を強化し、収益性向上を図る

(億円)

	1Q			年間				
	2019年 実績	2018年 実績	対前年	2019年 見通し	2018年 実績	対前年	2019年 (前回)	対前回
売上高計	1,094	1,171	-6.5%	4,795	4,376	+9.6%	4,770	+25
営業利益	67	105	-36.0%	362	288	+25.5%	350	+12
%	6.1%	8.9%		7.5%	6.6%		7.3%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2019年 1Q実績	2019年 見通し
合計	-5.1%	+11.7%



CT
『Aquilion Start』



MRI
『Vantage Orian』

産業機器その他

- 半導体露光装置はメモリ投資の先送りを反映し、年間計画を見直し
- FPD露光装置は計画通りに進捗しており、年間計画を据え置き
- ネットワークカメラは豊富なラインアップと販売網を活かして2桁成長

(億円)

	1Q			年間				
	2019年 実績	2018年 実績	対前年	2019年 見通し	2018年 実績	対前年	2019年 (前回)	対前回
露光装置	390	539	-27.6%	1,846	1,998	-7.6%	2,045	-199
その他	1,375	1,589	-13.5%	6,309	6,431	-1.9%	6,405	-96
売上高計	1,765	2,128	-17.1%	8,155	8,429	-3.3%	8,450	-295
営業利益	53	154	-65.7%	283	557	-49.2%	395	-112
%	3.0%	7.2%		3.5%	6.6%		4.7%	

※ 放送機器やシネマ用ビデオカメラなどのビジネスについて、イメージングシステムから産業機器その他へ遡及して組替えを行っております。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

■ 露光装置台数 (単位：台)

	2019年 1Q実績	2019年 見通し		2018年 1Q実績	2019年 1Q実績	2018年 実績	2019年 見通し
	露光装置	-27.2%		-7.0%	半導体	27	14
その他	-13.0%	+0.2%	FPD	21	15	69	56
合計	-16.6%	-1.5%					

在庫の状況

- イメージングシステムは生産調整を行い、早期に適正水準に引き下げる
- メディカル・産業機器その他は今後の拡販に向けて在庫を積み増し

(金額：億円)

		2018年				2019年
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
オフィス	金額	2,075	2,099	2,246	2,061	2,152
	日数	41	42	46	42	44
イメージングシステム	金額	1,405	1,452	1,738	1,396	1,562
	日数	47	57	67	50	62
メディカルシステム	金額	804	860	893	906	938
	日数	66	74	80	73	75
産業機器その他	金額	1,601	1,583	1,727	1,750	1,857
	日数	73	75	86	91	101
合計	金額	5,885	5,994	6,604	6,113	6,509
	日数	52	56	62	56	62

※ 放送機器やシネマ用ビデオカメラなどのビジネスについて、イメージングシステムから産業機器その他へ遡及して組替えを行っております。

キャッシュフロー(年間)

- 手元資金は前回公表の5,000億円を維持
- 新規事業の成長原資は引き続き確保

(億円)	2019年 最新見通し	2019年 前回見通し	2018年 実績
営業活動によるキャッシュフロー	5,700	5,950	3,653
投資活動によるキャッシュフロー	-2,600	-2,900	-1,956
フリーキャッシュフロー	3,100	3,050	1,697
財務活動によるキャッシュフロー	-3,250	-3,200	-3,549
為替変動影響	-56	-56	-160
現預金の純増減額	-206	-206	-2,012
現預金の期末残高	5,000	5,000	5,206
手元回転月数 ※	1.6	1.5	1.6
設備投資	1,650	1,750	1,593
償却費	2,300	2,400	2,516

※ 2019年は年間売上高で算出。2018年は下期売上高で算出

サステナビリティへの取り組み キヤノンの社会的責任に対する基本的な考え方

■ 企業理念「共生」のもと、様々な活動を通じて、 企業価値を向上し、よりよい社会の実現に貢献すること

持続的成長に向けて当社が取り組む**重点課題**

- ・新たな価値創造と社会課題の解決
- ・地球環境の保護、保全
- ・人と社会への配慮

よりよい社会の
実現に貢献

様々な活動

企業理念「共生」

グローバル優良企業グループ構想



■ 進化した「サステナビリティレポート」

- ・価値創造に向けた事例(非財務情報)拡充
- ・統合報告に向け、非財務と財務戦略を統合



4月18日発行

※キヤノンホームページより
ダウンロードいただけます

キヤノンのサステナビリティへの取り組み

3つの重点課題

新たな価値創造・ 社会課題の解決

医療・監視、産業ロボットなど、
イノベーションを通じて課題解決に貢献

地球環境の 保護・保全

製品ライフサイクル全体を通して、
地球環境への影響を軽減

人と社会への配慮

人権、労働、社会貢献、製品責任、サプライチェーン、ダイバーシティ

社外からの評価



2018 Constituent
MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

持続可能な社会の将来世代への継承を目指して
高度な資源循環を実現するキヤノンエコテクノパーク



地球環境大賞の経済産業大臣賞を受賞

參考資料

■ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

		2019年		2018年	
		1Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	年間 実績
複合機					
円貨	ハード	-3%	+3%	-5%	-1%
	ノンハード	-4%	-3%	+2%	-1%
LC	ハード	-2%	+6%	-6%	-2%
	ノンハード	-2%	0%	0%	-2%
LP					
円貨	ハード	-2%	-5%	+2%	+1%
	ノンハード	-12%	-7%	-4%	-1%
LC	ハード	-2%	-2%	+3%	+1%
	ノンハード	-12%	-4%	-2%	-1%
インクジェット					
円貨	ハード	-6%	+9%	-3%	-3%
	ノンハード	-10%	-4%	-4%	-5%
LC	ハード	-4%	+12%	-4%	-3%
	ノンハード	-8%	-1%	-5%	-5%

■ カラー比率

		2019年		2018年	
		1Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	年間 実績
複合機	売上高	59%	60%	58%	59%
	台数	58%	59%	57%	58%
LP	売上高	52%	52%	51%	51%
	台数	18%	19%	17%	18%

■ 複合機 モノクロ/カラー別 対前年売上伸び率

		2019年		2018年	
		1Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	年間 実績
円貨	モノクロ	-5%	-3%	-1%	-3%
	カラー	-2%	+2%	-2%	0%
LC	モノクロ	-4%	0%	-2%	-3%
	カラー	-1%	+5%	-3%	-1%

■ レンズ交換式カメラ比率

	2019年		2018年	
	1Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	年間 実績
金額ベース	84%	85%	85%	85%
台数ベース	63%	62%	64%	61%

※金額ベースには交換レンズも含む

■ 半導体露光装置台数 光源別内訳

(単位：台)

	2019年		2018年	
	1Q 実績	年間 見通し	1Q 実績	年間 実績
KrF	5	29	7	32
i線	9	71	20	82
合計	14	100	27	114